主任コラム9月号

主任　澤井　良子

先月末、園行事の夏まつりがありました。今までは、職員が出店屋さんになり子ども達と保護者の方がお客さんとなり参加していただいていましたが、ここ近年の異常な暑さの中、園で去年まで同様の人数を招いて行う夏まつりは難しいと話し合い、今年度は職員と子ども達のみで計画し行いました。年長さんを中心とし、何の出店にするのか？当番はどのようにするのか？などを話し合いながら進めてきました。当日は０歳児から５歳児までが、エコバッグとチケットを持ち、ホール内にある出店を回りました。年長児は、それぞれの店に立ち「どうしたら小さい子がうちわを選びやすいかな？」「この方がヨーヨーを釣りやすいかな」など考え、どうしたらいいかわからない子には声をかけ「どれがいいい」と寄り添う姿が見られました。自分たちで役割を決めただけあり、責任をもつこと、小さい子の立場や気持ちになって考えるという姿に成長を感じました。そして、給食は屋台風のメニューにしてもらったことから０歳児から年中児まではチケットで交換したり、年長児は７月に『お金の話』という外部から来ていただいてお金の使い方を学んだことから、１００円玉を作り買い物をするという体験もしました。手にある３００円の中で、それぞれ１００円のポテトと焼そばを買うにはいくら出したらいいのかを考えながら園長先生とやりとりをし、自分で買うという体験をしました。（これは今月末にある『おとまり保育』の中でも実際に駄菓子屋さんに行ってお買い物をします）行事や遊びの中で数に触れたり（環境）、異年齢での交流をする中で相手の気持ちを考える（人間関係）ことを取り入れながら行事や日々の保育を充実させていきたいと思います。年長児を初め、子ども達から『お祭り楽しかった』という言葉が聞けたことがなにより嬉しかったです。

お盆明けからは、長野県へ見守る保育の全国実践研究大会と、東京で行われたサミットへ参加してきました。色々な県の保育園の環境や保育を見ることで、地域や園舎は違っても「子ども主体とした保育の実践」や、「子どもが自ら学びを深められる環境」など子どもの育ちを大切に日々の保育をしていく考えは同じで、自園ならどう実践していきたいかを振り返り、たくさんの県外の先生方と話すことで多くの学びと繋がりをもつことができました。そして、近代以降の世界では【自由＝自己実現】という枠組みで教育が進んだことで「自分ファースト」「自国ファースト」の価値観が肥大化し、社会的なつながりや共感力、利他性が後退しているという話も印象に残りました。子ども達がこれから大人になった時に生き抜く力をつけるためには、この幼少期の大切な時期の保育をどうしたらいいのかを常にアップデートしながら、職員全体で学びを深めていきたいと思います。